

AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2013年12月 No.41 定価150円
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

フィリピン台風30号被災者に対する緊急医療支援活動

11月8日にフィリピン南部のレイテ島を中心に大きな勢力を持った台風30号が上陸し、強風と高潮の影響でレイテ島、サマル島、パナイ島など多くの島で、死者5,719人、負傷者26,233人、行方不明者は1,779人という甚大な被害をもたらしました。(フィリピン国家災害対策本部12月4日発表)

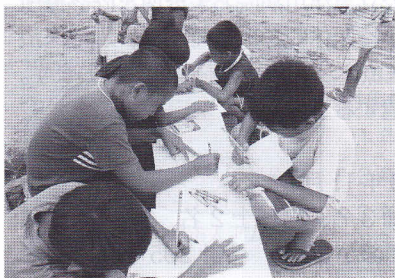
この現状を受け、AMDAでは11月10日にAMDA医療チームを派遣し、支援活動を開始しました。

第1次派遣としては、10月15日フィリピンボホール島で発生した地震被災地を訪れました。この地は、この台風の通過地点から逸れていたため、甚大な被害は免れていましたが、地震のために倒壊した建物は、台風の影響による強風のためにさらに崩れ、未だ余震が続くなど、不安な状況が続いていました。また地震により学校なども被害を受けており、屋外での授業を余儀なくされている子どもたちもおり、約2,850人へ文房具を寄贈しました。



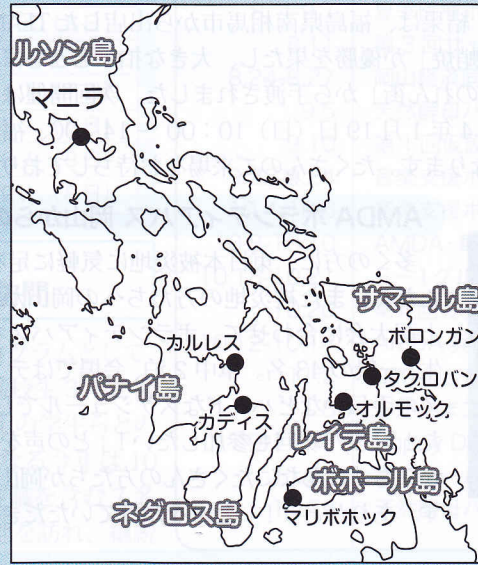
ボホール島で文房具を受け取った子どもたち

また台風の直接的な被害を受けたエリアへの支援ニーズが高いと判断されたことから14日以降、これまでに6回、のべ10人のスタッフを現地に派遣し、パナイ島、ネグロス島、サマル島、レイテ島で支援活動をスタートしました。多くの島が被災を受け、物資の輸送や、被災地へのアクセスなどが大きな問題となっており、徐々に地域による支援の偏りなどもみられています。そこで、AMDAでは、支援が不足している地域に分かれての活動を行っています。



パナイ島で子どもたちのメンタルプログラム

■活動場所地図とこれまでの活動地ごとの活動内容一覧



- サマル島 (ヘルナーニョほか)
生活支援物資の配布、巡回診療
- レイテ島 (タクロバンほか)
生活支援物資の配布、巡回診療
- レイテ島 (オルモックほか)
生活支援物資の配布、巡回診療
- パナイ島 (カルレスほか)
生活支援物資の配布、巡回診療
- ネグロス島 (カディスほか)
被災状況の確認とニーズ調査
- ボホール島 (マリボホックほか)
文房具の提供

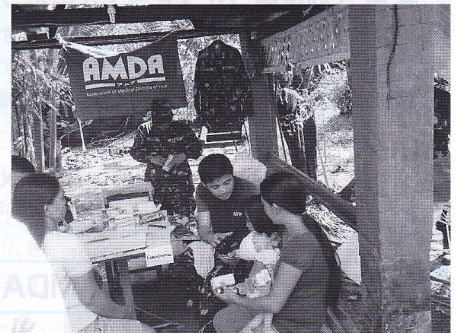
パナイ島カルレス町などで医療支援と物資の配布を実施。上気道感染・頭痛などの痛みの訴えのほか、高血圧の患者が多くみられました。さらに不眠や不安の訴えが多く聞かれました。また、子供たちに対しては、絵を描くことを通じたメンタルケアプログラムを実施しました。

レイテ島のオルモック北部カナンガなどを中心として巡回診療を中心とした支援活動を行いました。このエリアは突風の被害が大きく、多くの方ががれきなどによる傷を負っていました。また特徴的だったのは、瓦礫や枯れ木類の片付けによる子どもの火傷も目立ちました。

レイテ島タクロバンでは、多くの支援が入っていたためタクロバンから南下しながらパロ町などで物資配布や巡回診療を実施しました。ここでは、栄養不足や精神的なストレスによる症状が多くみられました。また診察に訪れる約1/3が子どもでした。

サマル島にはレイテ島から南部の海岸線を移動しながら、ボロンガンまでの6か所の町で物資配布を実施しました。災害後初めての支援となる地域もあり、多くの方が詰めかけてくださいました。またボロンガンでは巡回診療も実施することができました。

AMDAでは現在も支援活動を継続しています。



サマル島での巡回診療の様子

■AMDA 派遣者

- Prakash Sharma：AMDA ネパール支部 医師 (11月24日～11月30日)
- Punam Gauro：AMDA ネパール支部 看護師 (11月24日～11月30日)
- Hamka Rani：AMDA インドネシア支部 医師 (11月18日～11月30日)
- Asmuliadi Azis：AMDA インドネシア支部 / 医師 (11月18日～11月30日)
- 古城 デイジー：総社市教育委員会 調整員 / 倉敷市在住 (11月18日～25日)
- 岩本 智子：AMDA 看護師 (米国免許) (11月18日～現在)
- Wilson 直美：AMDA ERN メンバー 看護師 (11月16日～12月8日)
- 大政 朋子：AMDA 調整員 (11月14日～12月8日)
- Nithian Veeravagu：AMDA 調整員 (11月14日～19日)
- 山崎 希：AMDA 看護師 (11月10日～23日)

東日本大震災復興支援事業

AMDAでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災に対して、翌日から緊急医療支援を開始。地元の医療機関の再開をめどに復興支援に切り替えて、「第1次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱としたさまざまな復興支援事業を継続しています。また2014年3月からは「第2次復興支援3か年事業」がスタートします。

第4回復興グルメF-1大会と岡山からのボランティアバスツアーを開催

第4回復興グルメF-1大会開催!

復興グルメF-1大会とは、三陸沿岸部一帯の商店街が復興に向けて一丸となり、東北の現状および情報を全国的に発信するとともに、情報や知恵を共有することで新たな復興への協力体制を形成することを目的としています。

東日本大震災の復興支援として、被災地間を結ぶ交流事業、第4回復興グルメF-1大会を10月20日に、宮城県本吉郡南三陸町「南三陸さんさん商店街」を会場に開催しました。

10地域14チームによる復興グルメがエントリーし、当日は、午後からの雨にもかかわらず約2000の方が会場に訪れました。結果は、福島県南相馬市から出店したTEAM南相馬「かしま幸福商店街」の「りゅうぐう蛸焼」が優勝を果たし、大きな拍手とともに、優勝トロフィーが前回の優勝チーム「おしかのれん街」から手渡されました。次回開催は初の福島での開催が決定しました。次回は2014年1月19日(日)10:00~14:00、福島県南相馬市 鹿島生涯学習センターが会場となります。たくさんのご来場をお待ちしております。



多くの人でにぎわった会場の様子



ボランティアバス参加者のみなさん

AMDA ボランティアバス 岡山からの初運行

多くの方に、東日本被災地に気軽に足を運んでいただき、被災地の現状を知っていただく、また被災地の方たちへの岡山からの支援メッセージを届ける意味も込めて、上記大会に合わせて、ボランティアバスを運行しました。参加したのは高校生、大学生、一般の43名。車中2泊、会場ではテント設営から当日の会場受付、車の誘導、ブースの手伝いなどハードなスケジュールでしたが、参加者の皆さんから「参加してよかった!」「また次回も参加したい!」との声をいただきました。また被災地の商店街の方々からも「こんなにたくさんの方たちが岡山からわざわざ来てくれて、本当にうれしいです。ありがとう!」と声をかけていただきました。次回大会にも運行します。

第5回復興グルメF-1大会ボランティアバス 参加者募集! (お問い合わせお申込みはAMDAボランティアセンターまで)

第5回復興グルメF-1大会の開催に合わせて、AMDAではボランティアバスを運行します。イベント前日の会場設営や、当日の運営をお手伝いいただくボランティア活動です。たくさんのご参加をお待ちしております。

【参加費】 AMDA会員 10,000円、非会員 12,000円(バス代、宿泊代含む。食事代、ボランティア保険料は含みません)

【スケジュール概要】

1/17 20:00 岡山駅発(車中泊) 1/18 11:00 福島県南相馬市着 被災地視察およびイベント準備など 17:00 宿泊施設にて夕食後、ボランティアに関するディスカッションなど(宿泊施設泊) 1/19 6:00 宿泊施設発 福島県南相馬市着 イベント運営・撤収 16:00 出発(車中泊) 1/20 6:30 岡山駅着

震災ホームレス支援 AMDA 支援農場のスタート

AMDAでは震災ホームレス支援として、これまで冬季の食料支援を実施していました。ところが一年をとおして、震災ホームレスの方々のための米の供給が不足している現状を受け、年間を通じて食糧支援することを決定しました。また同時に、それぞれが作ったお米をホームレス支援に提供する「AMDA 支援農場」を募集しました。45名(団体)が応募くださいました。11月2日には「食糧と人道支援シンポジウム:東日本大震災を通して見えたもの」が開催され、基調講演にWFP国際連合世界食糧計画日本事務所の中井氏をお迎えし、「災害後の食料支援」についてディスカッションを行いました。会場には「AMDA 支援農場」の皆さんが提供くださったお米が積み上げられ、震災ホームレスを支援しているNPO法人仙台夜まわりグループの今井理事の目の前で、同農場代表世話人の竹内洋二氏から、支援農場の皆さんへの「認定証」が授与されました。

合同シンポジウムの様子



志津川病院ボランティアスタッフ派遣



ボランティア医師 夏期派遣 志津川病院にて

被災地医療機関支援として、宮城県南三陸町の公立志津川病院および南三陸診療所に対して、春季、夏季、冬季の地元医療スタッフが長期休暇を取る時期に、現地医療スタッフの負担を軽減すべく、2011年の夏季から医療ボランティアを派遣しています。今回は冬季派遣として医師3名、看護師2名を派遣する予定です。

これまでの派遣者数(復興支援2011年4月~2013年11月末まで)

医師16名、看護師37名、准看護師5名、薬剤師3名、心理士2名、鍼灸師4名、調整員51名、医学生21名、看護学生27名、そのほか39名 合計205名

東日本大震災復興支援事業

鍼灸治療支援活動

(岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県石巻市雄勝町)

岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県石巻市雄勝町の2か所で、それぞれ地元の鍼灸師を雇用して、鍼灸治療支援活動を実施しています。いずれも、地元医療機関との連携を行っています。それぞれの先生方の技術も大変人気で、毎月多くの方に利用していただき、予約待ちの状況が続いています。

月別鍼灸治療のべ患者数 (2013/6から2013/11月末まで)

大槌町	6月	129人	雄勝町	6月	63人(8日)
	7月	140人		7月	57人(9日)
	8月	113人		8月	44人(7日)
	9月	106人		9月	45人(8日)
	10月	114人		10月	36人(8日)
	11月	108人		11月	39人(8日)

AMDA・華蔵寺合同支援プログラム
第2回 東日本交流事業 被災地訪問

AMDA・華蔵寺(久米郡美咲町)合同プログラムとして、2012年7月に岩手県上閉伊郡大槌町から高校生3名と大槌稲荷神社から2名を岡山に招へいし、岡山の学生らとの交流事業を実施しました。そして2年目となる今年は10月8日から10日の2泊3日で、華蔵寺ご住職を含む7名の宗教者の方が岩手県大槌町、釜石市被災地を訪れ、継続的な支援のメッセージを届けたほか、被災地の宗教施設を訪れるなどの交流を行いました。



大槌町を訪れた華蔵寺阿形ご住職ら

AMDA 大槌健康サポートセンター

AMDA 大槌健康サポートセンターでは、地域の方々の「心身の健康」をテーマとし、集える場所、意欲形成の場所として、様々な教室事業やイベントを実施しています。大槌町内の仮設住宅では、出張「フライパンとポリ袋で作る天然酵母パン教室」が始まりました。講師として活躍してくださっているのは、昨年同センターで開講した「天然酵母パン講師養成講座」の卒業生です。最近盛岡市など町外からも講師依頼が来るということで、卒業生の方々が活躍の場を広げています。また同センターに来られない方にも、教室を通じて、健康な食や楽しい時間を届けることができ貴重な機会となっています。



「天然酵母パン教室」出張講座の様子

AMDA 東日本国際奨学金

AMDAでは「東日本国際奨学金」として、将来医療従事者をを目指す学生を対象に年間18万円(15,000円/月)を支給しています。皆様のご支援により、2013年度にも新規奨学生の募集を行うことができました。現在、岩手県立釜石高校、岩手県立釜石商工高校、岩手県立大槌高校、岩手県立大船渡高校、宮城県立志津川高校、宮城県立気仙沼高校、仙台医健専門学校、東北挑戦初等中高級学校の8校を学生を対象としています。これまでに、のべ253人が奨学金を受給しています。

2014年以降も奨学金の支給を予定しております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

奨学生数の推移

	2011年度	2012年度	2013年度
対象校	7	8	8
1年	28	13	8
2年	27	41	13
3年	31	47	45
合計	86	101	66

AMDA 東日本国際奨学金
専用口座

ゆうちょ銀行
01320-1-101415
「特定非営利活動法人アマダ」

◆東日本大震災復興支援活動の軌跡◆
(2013年6月～2013年11月)

6.1	AMDA 大槌健康サポートセンター 引っ越し
6.10	AMDA 大槌健康サポートセンター 仮事務所 再開
6.19	天然酵母パン指導者養成プレ講座開催(雄勝町)
6.21	震災ホームレス 米支援開始(仙台)
7.21	第3回復興グルメF-1大会開催(石巻市)
7.22-25	岡山市立吉備中学校ボランティア受け入れ
7.30-7.31	災害鍼灸チーム養成プログラム開催
8.4-9.7	夏季医療ボランティア派遣(志津川病院)
8.11	第3回サッカー親善交流事業開催(気仙沼市)
8.24-8.27	岡山経済同友会ボランティア受け入れ
9.5	天然酵母パン指導者養成講座開始(雄勝町)
9.10	第1回仮設商店街による情報郷友会開催(気仙沼市)
9.22-9.24	音楽支援ボランティア受け入れ(雄勝町、鮎川)
10.4-10.6	音楽支援ボランティア受け入れ(大槌町、釜石市)
10.8-10.10	AMDA・華蔵寺合同プログラム 被災地訪問(大槌町)
10.18-10.21	F-1グルメボランティアバスツアー(岡山～南三陸)
10.20	第4回復興グルメF-1大会開催(南三陸町)
10.12-10.14	AMDA 兵庫県支部交流事業実施(雄勝町)
11.2	NPO 仙台夜まわりグループ合同シンポジウム開催(岡山)
11.8	おかやまコープボランティア受け入れ(大槌町)
11.9-11.10	Happy DELI バスツアー受け入れ(大槌町)
11.23	震災ホームレス支援 AMDA 支援農場お米発送①
11.29	天然酵母パン指導者養成講座修了(雄勝町)

奨学生の志望職種

	2011年度	2012年度	2013年度
医師	10	9	6
看護師	29	34	25
薬剤師	5	7	8
理学療法士	14	15	9
作業療法士	2	0	0
臨床心理士	0	1	1
保健師	0	2	1
臨床検査技師	1	1	0
放射線技師	1	2	1
義肢装具士	1	1	1
その他	23	29	14
合計	86	101	66

四川地震復興支援：四川大学－香港理工大学で講義を実施

4月20日、現地時間午前8時ごろ中国四川省成都市から約115キロ西南西に位置する雅安市蘆山県を震源とするマグニチュード(M)6.6の地震が発生し、AMDAでは緊急支援活動として、調整員1名を派遣し、物資支援の配布などの活動を行いました。

この際に、2008年の四川省大地震の際、AMDAが支援活動の一環で養成した心理カウンセラーが被災学生らの精神面でのケアに携わっている様子が伺えたことから、次世代の復興を担う学生を対象とした復興支援として、四川大学-香港理工大学災害復興管理学院で、AMDAグループ代表・菅波茂が講義を実施することになりました。

当日は約100人の学生が聴講し、これまでAMDAが実施してきた支援活動などを通して見てきたことなどを中心に、これからの被災地の復興を担う学生に向けて熱いメッセージを届けることができました。



講演会の様子

AMDA 野土路農場のお米が駐日外国公館へ

「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を啓蒙・普及することを目的とするAMDAフードプログラム事業の実践農場であるAMDA野土路(のとり)農場で、2013年度も新米の収穫がおわりました。

この収穫した「AMDA有機米・コシヒカリ」を、新庄村の特産品のひめのもちなどと併せてAMDAの支部がある国のうち18駐日外国公館へ届けることができました。新庄村笹野村長、磯田議長、高村議員とAMDAスタッフ2名の計5名で訪れたペルー大使館では、AMDAの取り組んでいる活動のほか、有機農業や、圃場のある新庄村についての説明などを行い、積極的に質問なども出してくださいました。そして、「是非とも、これからもこのような交流を続けてください。」とおっしゃっていただきました。訪れたいずれの公館でも「有機農業」に対する関心が非常に高く、訪れたスタッフをみな歓迎していただきました。



ペルー大使館を訪問

事務局からのお知らせ

■お詫びと訂正

ジャーナル2013年秋号の巻末で紹介した「AMDA野土路(のとり)ダック」料理が食べられるお店の住所に一部訂正がございましたので改めて紹介させていただきます。

トラットリアミズオチ 岡山市北区丸の内2丁目12-27 TEL:086-234-1122
 晴れ国ダイニング・プロポスタ 岡山市北区中山下1丁目9-12 角南第5ビル1F TEL:086-235-1377
 日本料理・きこにあ 岡山市北区新屋敷町1丁目10-22 TEL:086-245-1122
 リストランテ収穫月(みのりづき) 倉敷市西岡277-4 TEL:086-424-6910

■募金箱について

AMDA募金箱が新しくなりました。設置店の皆様で募金箱の更新をご希望の方、また新規で募金箱設置にご協力して下さる方、AMDA事務局までお問い合わせください。

■寄付控除について

2013年5月8日から12月末までにいただいがご寄付に関して、寄付控除の領収書を発行させていただいております。クレジットカードでのご寄付はクレジットカード決済のご寄付は、決済日ではなくカード会社ならびに決済代行会社からAMDAへ入金された日が受領日になります。12月決済分は翌年の領収証明書となりますのでご了承ください。

■理事長交代のお知らせ

アジアを中心とするAMDAの活動をさらに機動的に高めるべく、マレーシアに地域事務所を開設する準備を開始いたしました。このことに伴い、菅波理事長はマレーシア滞り期間が長くなり日本を留守にすることが見込まれますことから、当法人理事長を、菅波茂から成澤貴子理事・事務局長に交代することになり、11月1日付で成澤が理事長に就任いたしました。菅波はこれまでどおりAMDAグループ代表として、マレーシアから今の日本そして世界に必要とされる国際人道支援活動の新機軸を発信してまいります。

今後とも尚一層のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

AMDAグループ代表 菅波 茂
 認定特定非営利活動法人アムダ:AMDA 理事長 成澤 貴子

AMDA VSCO 合同シンポジウム開催

9月21日にAMDA-VSCO合同シンポジウム女性の人權と相互扶助を開催しました。国連人口基金の佐崎所長を基調講演にお迎えし、そのほか4名のシンポジストからそれぞれ女性の人權と社会的地位の向上に目を向けて、支援活動を行っている自治体、団体から、それぞれの活動をふまえた活動報告を行いました。この会を通じて、団体の垣根を越えた先駆的な協力体制をとっているこの「おかやまモデル」を全国、世界に広めていくことが重要であると締めくくりました。

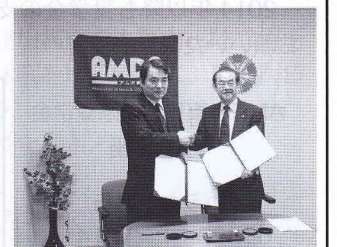


※VSCOとは
 公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま(VSCO)は、犯罪被害者を支援する岡山県の民間団体です。

写真左から、AMDAグループ菅波代表、国連人口基金佐崎所長、VSCO 森業務執行理事、総社市片岡市長、岡山市箕浦局長

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 岡山県済生会と連携協定を結びました

2013年10月15日、岡山済生会総合病院にて、社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会と認定特定非営利活動法人AMDAが連携協力に関する協定を締結しました。これまで様々な連携事業を実施していますが、改めて連携協力協定を結ぶことで、更に国際医療協力を継続し、これまでの実績を広め県民に資する活動を目指したいと考えています。



写真左 AMDAグループ菅波代表と済生会支部業務担当岩本一壽理事